

## 蹴とばされた石

もうりんかくかん ていり びくん かんが  
毛鱗角冠 蹄履尾裙 有情非情 動物植物 同じく平等の仏性を鑑みて  
だいえん  
忽ちに不二の大衍を証せん (性霊集六 式部笠丞願文)

【すべての動植物に等しく仏性があるから、それぞれに最上の悟りを得ることを願う】

私の亡き父は、よく道端に転がっている小石を蹴とばしながら歩いていたものです。面白い癖だと思って子心に見ていました。ところが、亡き父の年齢に近づいて、私も石を蹴って歩くことが多くなりました。この小石で転ぶ人がいるかもしれません。車が石を跳ね飛ばすかもしれません。他に危害を与える石であってはならないから道の隅へ蹴とばすわけです。

あらゆるものに仏の性質があります。これを「悉有仏性」といいます。仏性は磨かなければ仏になれません。修行は仏を目指すために行なわれます。仏になるために辛いことをあえて続けます。仏への熱い願いがなければ仏教ではありません。

石にも仏性があります。しかし、石が道にころがっていれば人に怪我をさせる原因になりかねませんから、蹴とばして無為の世界へ移すわけです。これが修行の意味です。なにやら屁理屈を語っているように思われましようが、よくよく考えてほしい大切な点です。

鳥のいのちも、草のいのちも、犬も、石も、雲も、私も、すべて平等に存在しているいのちです。あらゆるものに仏の性質がありますが、そのままでは成仏はできません。師に蹴とばされ、修行に励んでこそ仏になれるわけです。

蹴られた石はしかるべき場所で安住します。すべてのものはしかるべきところに存在しています。蹴とばされても存在しています。蹴とばされなくても存在しています。今ここに在るということが愛おしいのです。すべてに仏の性質があるからです。

主題の名言には、「それぞれに最上の悟りを得てほしい」というお大師さまの切なる悲願があります。名言の文言が難しいので以下に注釈を加えておきます。

「毛鱗角冠」とは獣類と魚類と角のある動物。「蹄履尾裙」とはひづめを履く動物と尾を垂れる動物。「不二の大衍」とは密教の悟りです。一切衆生の成仏を願う弘法大師のこのような表現は随所で拝見することができます。

『空海散歩』第三巻「たすけあい」より

× × × ×

弘法大師空海法話全集『空海散歩』第三巻「たすけあい」が筑摩書房より発売。

著者 67名渾身の空海名言法話 192話を読むことができます。

申込先／金龍寺・書店・筑摩書房／定価 2,200円＋税